

用語

1. 県内最終需要

各消費支出と総固定資本形成、在庫純増分を加えたものを指す。

$$\text{県内最終需要} = \text{消費支出（家計外、民間、一般政府）} + \text{総固定資本形成（民間、公的）} \\ + \text{在庫純増}$$

< 第4章第1節1取引基本表の見方の >

2. 県内需要

各産業部門の中間需要及び消費・投資等の県内最終需要の合計を指す。

$$\text{県内需要} = \text{内生部門（行）の合計} + \text{県内最終需要}$$

< 第4章第1節1取引基本表の見方の >

3. 最終需要

県内最終需要に移輸出を加えたものを指す。

$$\text{最終需要} = \text{県内最終需要} + \text{移輸出}$$

< 第4章第1節1取引基本表の見方の >

4. 投入係数

各産業が生産活動をするために使用した原材料、燃料などの中間投入額を、その産業の県内生産額で除したものであり、1単位の生産をするために必要な原材料の投入割合を示している。

$$\text{投入係数} = \text{産業別投入額} / \text{産業別生産額（列）}$$

5. 逆行列係数

経済波及効果測定のために、与えられた最終需要額に対する波及効果の最終的な大きさをあらかじめ計算しておいた係数。

$(I - A)^{-1}$ 型は、波及を県内に限定したモデルである。

$\{I - (I - M)A\}^{-1}$ 型は、生産波及が県外にも及ぶことを想定したモデルである。

これらの違いは、波及に移輸入を考慮するかどうかの点にある。

逆行列係数表の表頭の部門は、最終需要が1単位発生した部門を表しており、表側の部門は、それによって生産の誘発を受ける部門を表している。

6. 影響力係数

逆行列係数の各列の数値は、その列部門に対する最終需要が1単位発生した場合において、各行部門において直接・間接に必要な生産量を示している。そしてその合計（列和）は、その列部門に対する最終需要1単位によって引き起こされる産業全体に対する生産波及の大きさを表す。

この部門別の列和を列和全体の平均値で除した比率が「影響力係数」である。これはどの列部門に対する最終需要があった場合に、産業全体に与える生産波及の影響が強いかを相対的に表す指標となる。

この影響力係数が大きいほど産業全体に与える影響が大きいことを示している。

$$\text{影響力係数} = \text{逆行列係数の列和} / \text{逆行列係数の列和全体の平均値}$$

< 第4章第1節3逆行列係数表を参照 >

7. 感応度係数

逆行列係数の各行は、表頭の列部門に対してそれぞれ1単位の最終需要があったときに、その行部門において直接・間接に必要な供給量を示しており、その合計（行和）は、表頭各

部門から受ける影響の大きさを表す。

この行和を行和全体の平均値で除した比率が、「感応度係数」である。これは各列部門にそれぞれ1単位の最終需要があった場合に、どの行部門が影響を受けやすいかを相対的に表す指標となる。

この感応度係数が大きいほどその部門の生産活動は他の部門から影響を受けやすいことになり、産業全体の好不況に敏感であるといえる。

感応度係数 = 逆行列係数の行和 / 逆行列係数の行和全体の平均値

< 第4章第1節3 逆行列係数表を参照 >

8．生産誘発額

県内生産活動は、最終需要を満たすために行われている。言いかえると、最終需要が県内生産を誘発しているといえ、このように、最終需要項目ごとにそれをまかなうために直接・間接に必要な県内生産額を最終需要項目別生産誘発額という。

県内最終需要（家計外消費支出、民間消費支出、一般政府消費支出、県内総固定資本形成、在庫純増）

・最終需要項目別生産誘発額 = 逆行列係数 × (県内自給率の対角行列 × 最終需要項目別県内最終需要)

移輸出

・移輸出生産誘発額 = 逆行列係数 × 移輸出需要額

これら と を足し合わせたものが生産誘発額全体となる。

< 第4章第1節4 - 1 生産誘発額参照 >

9．生産誘発依存度

各産業ごとの生産誘発額の最終需要項目別構成比のこと。その産業が、どの最終需要項目に依存しているかが分かる。

生産誘発依存度 = 最終需要項目別生産誘発額 / 各産業の最終需要項目別生産誘発額の合計 (行和)

< 第4章第1節4 - 2 生産誘発依存度参照 >

10．生産誘発係数

ある最終需要部門で最終需要合計が1単位増えた場合に、どの産業の生産がどれだけ誘発されるかを示した係数。

どの最終需要部門が増えると生産誘発が大きいかが分かる。

生産誘発係数 = 生産誘発額 / 当該最終需要項目の需要列和

< 第4章第1節4 - 3 生産誘発係数参照 >

11．粗付加価値誘発額

最終需要によって生産が誘発されれば、それに伴い雇用者所得や営業余剰等の粗付加価値も生み出されている。各産業の粗付加価値額がどの最終需要項目によってどれだけ誘発されたものか、その誘発された粗付加価値額のこと。

最終需要項目別粗付加価値誘発額 = 当該産業部門の (粗付加価値額 / 県内生産額) × 最終需要項目別生産誘発額

< 第4章第1節5 - 1 粗付加価値誘発額参照 >

12．粗付加価値誘発依存度

各産業ごとの粗付加価値誘発額の最終需要項目別構成比のこと。その産業の付加価値が、どの最終需要項目に依存しているかが分かる。

なお、粗付加価値は生産額に比例するものとしているので、各産業部門における粗付加価値

誘発依存度は生産誘発依存度に一致する。

粗付加価値誘発依存度 = 最終需要項目別粗付加価値誘発額 / 各産業の粗付加価値誘発額の合計（行和）

< 第 4 章第 1 節 5 - 2 粗付加価値誘発依存度参照 >

1 3 . 粗付加価値誘発係数

ある最終需要部門で最終需要が 1 単位増えた場合に、どの産業の粗付加価値がどれだけ誘発されるかを示した係数。

どの最終需要部門が増えると粗付加価値誘発が大きいか分かる。

粗付加価値誘発係数 = 最終需要項目別粗付加価値誘発額 / 当該最終需要項目の需要列和

< 第 4 章第 1 節 5 - 3 粗付加価値誘発係数参照 >

1 4 . 移輸入誘発額

ある最終需要によって誘発されるのは県内生産のみでなく、各段階での需要の一部は移輸入でまかなわれる。このように、最終需要によって直接・間接に誘発された移輸入額を移輸入誘発額という。

< 第 4 章第 1 節 6 - 1 移輸入誘発額参照 >

1 5 . 移輸入誘発依存度

各産業ごとの移輸入誘発額の最終需要項目別構成比のこと。その産業の移輸入が、どの最終需要項目に依存しているかが分かる。

< 第 4 章第 1 節 6 - 2 移輸入誘発依存度参照 >

1 6 . 移輸入誘発係数

ある最終需要部門で最終需要が 1 単位増えた場合に、どの産業の移輸入がどれだけ誘発されるかを示した係数。

どの最終需要部門が増えると移輸入誘発が大きいか分かる。

< 第 4 章第 1 節 6 - 3 移輸入誘発係数参照 >

1 7 . 県内自給率（自給率）

県内需要における「県内で生産された財・サービス」の割合。

移輸入率 = 移輸入額 / 県内需要額合計

自給率 = 1 - 移輸入率

1 8 . 消費転換係数

雇用者所得のうち消費に転換される割合を示した係数。

本県では家計調査報告（総務省）の平均消費性向を使用している。

1 9 . 平均消費性向

家計の可処分所得（税金や社会保険料を除いた手取り収入）における消費支出の割合。

本県分析ツールでは、家計調査報告（総務省）「二人以上の世帯のうち勤労者世帯（農林漁家世帯含む）」の松江市の数値を使用している。

2 0 . 特化係数

この値が 1 より大きければ、国よりも生産額構成比が高いことを表している。

特化係数 = 県の産業の生産額構成比 / 全国の産業の生産額構成比